

平成31年度 低コストで効率的な森林整備(造林・保育)の推進・普及に向けた取組 取組予定

留萌南部森林管理署

【現状】

●今後、主伐の増加に伴い、更新箇所の増加が見込まれる。各自治体とも林業の担い手不足はもとより、「林業」に精通している職員が不足。

【課題】

●再造林や保育の一層の低コスト化が必要。

【目的】

●低コストで効率的な森林整備の推進・普及を図る。

【これまでの取り組みや成果】

- 下刈2回刈を省略化 <H25～H27の取組>
 - ・振興局にも生長データ提供。
 - ・H27技術交流発表会で紹介。
- 一貫作業システムとコンテナ苗の活用による低コスト造林
 - <H26の取組>
 - ・誘導伐（更新伐）コンテナ苗の現地検討会を開催し、留萌地域で初の一貫作業システムを紹介)
 - <H28～30の取組>
 - ・一貫作業システムによる造林の効率化・低コスト化を目的に現地検討会等を開催。



【今後の目標】

地域に向けて積極的な情報発信や技術支援等を行うことにより、森林組合や民有林における低コストで効率的な森林整備手法を普及する。

【令和元年度の取組予定】

<先進事例の紹介>

民有林での施業に普及してもらうため留萌振興局林務課・森林室の職員を対象とし、コンテナ苗植栽後の大型機械による（ロータリークラッシャー）下刈作業の紹介を行う。



<省力化・軽労化>

- 下刈の省力化（留萌振興局林務課・森林室及び地域の林業事業者との勉強会を開催する）
 - ・高足刈、2回刈の見直し、成長の良いクリーンラーチ苗植栽等
 - 下刈軽労化
 - ・下刈機械導入の可能性
- ☆取組のポイント☆
- ・分かりやすい資料（データ整理等、具体的メリット）
 - ・普及の進捗度把握（聞き取り調査、勉強会）

【今後の取組 で目指すところ】

国が先駆的に実施している、下刈の省力化など森林整備の省力化、低コスト化などの取り組みについて、先進事例の紹介等で、分かりやすい資料等による積極的な情報発信、技術支援等を行い留萌地域への普及を目指す。

目 標

地域に向けて積極的な情報発信や技術支援等を行うことにより、森林組合や民有林における低コストで効率的な森林整備手法を普及する。

令和元年度の取組

取組の内容

取組の成果

【下刈作業の軽労化】

- 先進事例の紹介
- 刈払機から大型機械へ

○大型機械による下刈作業の紹介
下刈作業は刈払機を使った人力で行われており、軽労化には機械化が急務である。
このため留萌振興局林務課・森林室の職員を対象に、請負事業体の協力で「ロータリークラッシャ」を装着した大型機械による「クラッシャ下刈」作業の現地検討会を小平国有林で開催し、実際に導入する場合の植栽仕様や作業支障となる伐根の処理方法などについて意見交換を行った。



【下刈作業の省力化】

- 実施事例の紹介
- 画一的から適切な実施へ

○下刈 2 回刈の適切な実施方法の情報提供
管内の一部民有林では、下刈作業を10年間にわたり2回刈で画一的に実施している箇所がある。
苗木の生長に真に必要な実施回数として省力化を図るために、留萌振興局林務課・森林室、市町の林務担当者及び地域の林業事業体を対象に国有林での実施事例の情報提供を行った。



国が先駆的に実施している、森林整備の省力化、低コスト化についての情報提供を市町村森林整備計画推進チーム等で実施したことにより、管内で行われている下刈の問題点などについての意見交換を行うことができた。これらによって次年度の取組（現地見学会）につながる下地ができた。



目標に対する達成度

現地検討会、情報提供を行うことにより、現在、管内で行われている作業方法等についての問題提起を行うことができ、低コストで効率的な森林整備手法について関心を持ってもらうことができた。

次年度の取組予定

道・市町の林務担当者及び地域の林業事業体等を対象に引き続き情報提供を行うとともに、特に下刈 2 回刈の省力化の普及につなげるため、「下刈省略試験地」見学会を開催し、その有効性に理解を深めてもらう取組を行う。